



光潮 會報

第64号
平成23年8月



山口県立光高等学校

光潮同窓会

も く じ

輝け光 あげよその名 我が学び舎に 栄えあれ	3
御挨拶	4
ご冥福をお祈りします	5
関東支部から	6
関西支部から	9
思い出の母校（五十五年前の頃）	10
徒然なるままに、5年日記	11
「走る」こと ～光高校陸上競技部～	12
在校生の皆様へ	13
オペラ歌手として	14
光潮同窓会の開催にあたって	15
同窓会運営組織図・役員名簿	16
部活動の紹介	17
部活動の足跡	18
大学・短大等の合格者数（過去六年）	22
就職状況	25
光高校歌・室女校歌みたらい学園歌・光中校歌	26
編集後記	27
守田 義昭	3
倉田 伸治	4
藤井 政道	6
鎌田 誠	9
吉規 忠雄	10
馬庭 佳子	11
国近 友昭	12
岡村 直	13
岡坂 弘毅	14
河野 修二	15

平成二十三年度

光潮同窓会総会のご案内

日 時 平成二十三年八月十三日(土)

十一時～

場 所 ホテル松原屋

光市虹ヶ浜三丁目九―十六

(電話〇八三三―七一〇〇四七)

次 第

11時～11時30分 総会

11時45分～14時 懇親会

会 費 三千円

本年の当番幹事は、卒業年次の末尾の数字が、昭和は1と6、平成は3と7の卒業生の皆さんです。

当番幹事の学年は、この機会に合わせて、同期会を是非開催してください。

表紙の作者

濱岡 正美 さん

(昭和63年卒)

挿絵の作者

仁賀井 浩子 さん

(平成2年卒)

輝け光

あげよその名

吾が学び舎に栄えあれ

会長 守田 義昭 (昭和42年卒)



昨年8月、光潮同窓会の会長に就任した昭和42年卒の守田です。

歴史と伝統のある光潮同窓会の会長として、甚だ非力ではありますが、今まで20年にわたり、同窓会広報部で「光潮会報」の編集を担当してきましたので、その経験や教訓を生かして、同窓会の活性化と母校の発展のために力を尽くす決意です。

光潮同窓会の源流を辿りますと、昭和11年に開校した旧制室積高等女

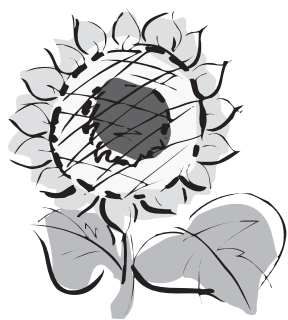
学校にさかのぼります。今から75年前のことになります。

光潮同窓会は、昭和28年8月、この室積高等女学校、旧制光中学校、定時制のそれぞれの同窓会を統合して光高等学校同窓会として発足しました。発足以来、58年という半世紀以上の長い歴史があり、今までの卒業生は、およそ19,000人ほどのほります。この卒業生が同窓生ということになります。

活発な同窓会活動を進めるにあたって、同窓会の目的について、至極当たり前の事柄ですが、次の4点を列挙します。

- ① 卒業生相互の親睦と交流
- ② 卒業生に対する支援と協力
- ③ 在校生に対する支援と協力

④ 母校に対する支援と協力
特に、1番目の卒業生同士の交流が最も中心的な目的であり、その推進は喫緊の課題です。



▼総会・懇親会へ皆さんの

ご参加を

同窓会の最大の取組は、毎年8月の総会と懇親会の開催です。

本年は、昭和61年卒業の幹事学年が実行委員会を設置して、現在、諸準備を進めています。

なお、本年3月の卒業生は、恒例により無料招待となりますので、同窓会1年生の皆さんは、誘い合わせてご参加ください。

開催日時・場所等は、表紙の裏に記載していますのでご覧ください。

また、同窓会では同学年などの同期会の開催に対する一定の補助制度があります。このような制度を活用され、同窓生の輪が大きく広がることを強く願っています。

何はともあれ、皆さん、「光潮同窓会」においでませ!

御 挨拶

校 長 倉 田 伸 治



同窓生の皆様方には、平素から、母校の教育活動の充実のために、多大な御支援・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、御案内のように、本校では、これまで、校訓「至誠一貫、質実剛健、堅忍不拔」と文武両道の校風の下、知・徳・体・情の調和のとれた、社会の発展に寄与しうる生徒の育成を教育目標として様々な教育活動を展開し、全国各地で活躍する一万九千名を超える卒業生を送り出してきました。

昨年着任した際に、本校の教育

変える「自分を創ることが大切であること、そして他を思いやる心「情」を大切にしてほしいことなどを生徒に繰り返し伝えたところです。

本年度は、新たに全日制、定時制合わせて百六十七名の新入生を迎え、全校で五百十名の生徒が、本校で学んでいるところです。

本年度も、教職員一同、引き続き、本校の教育目標をしっかりと意識して、「学習習慣の確立と学力定着の促進」「生徒・保護者の進路意識の高揚」「基本的な生活習慣の確立と自主的活動の促進」を重点的な取組として、また、「掃除の徹底」をチャレンジ目標として、各分掌・各学年で、組織的・計画的に教育活動にあたっています。

具体的には、少人数・習熟度別授業による一人ひとりに応じた指導の充実や、より多くの生徒が読書に親しんでくれることをめざした図書広報活動の充実、進路意識を高めるための講演会やセンター試験対策講座の実施、生活習慣の確立にむけた遅

刻防止活動等の展開、校内外のクリーン作戦等の実施による環境美化活動の充実などに取り組んでいるところです。

そのなかで、学習指導については、一年生では一泊二日の、二年生では一日日程で、それぞれ「光潮セミナー」を実施し、三年生では希望者を対象とした学習合宿を行うなど、生徒の希望進路の実現に向けてきめ細かな指導に努めています。

また、部活動については加入率も高く、全日制では、陸上競技、ヨットの各部及び新体操同好会が全国大会に出場し、さらに、ヨット部については、全国大会等にも出場することとなっています。定時制においても、バスケットボール、卓球、バドミントンの各部が県予選を突破し全国大会に出場することとなっています。

加えて、今年三月の東日本大震災で被災された方々を支援するため、生徒会執行部を中心として、支援物資の寄付を呼びかけたり、募金活動を繰り返し行うなど、生徒自身

が自主的に活動を展開し、成長しつつある姿を見せてくれているところです。

こうした取組により、生徒の意識が変わり行動が変わり、生徒が大きく成長し、結果として、それぞれが進路目標を実現する力を身につけてくれればと願っているところです。

今後とも、本校生徒の育成に力を尽くしてまいりますので、これまでと同様に、光潮講話などでの講師の引き受けを始め、部活動の支援など様々な面で御協力、御支援をよろしくお願いします。

おわりに、同窓会の益々の御発展と同窓生の皆様方の一層の御活躍を祈念申し上げ、御挨拶といたします。

ご冥福をお祈りします

光潮同窓会の副会長を務められました長岡幹夫氏（昭和 38 年卒）が逝去されました。

光潮同窓会の発展に極めて多大な貢献をされました先輩に対しまして、光潮同窓会の会員一同、心からの御冥福をお祈りいたします。





中原靖生会長

支部だより

関東支部から

関東支部事務局長 藤井 政道 (昭和47年卒)

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

関東支部の近況報告をさせて頂き

4月18日(月)には本年度総会に向けての運営方針を決定すべく、三役会(会長・副会長3名・事務局)

を開催し、5月に発行する支部機関紙「うしろ」36号の編集会議も来戸編集長同席の上、合わせて協議を致しました。又、5月21日(土)には、

四谷「主婦会館プラザエフ」会議室において、本年度第1回常任幹事会を開催し(出席10名)、三役会での決定事項について承認頂きました。

又、9月の学年幹事総会では吉規忠雄氏(S32年卒)に講演を依頼しました。

以下に今後の関東支部の日程と「うしろ」の抜粋を掲載させて頂きます。

1月28日 新年「ふくの会」

光潮同窓会関東支部の新年「ふくの会」が四谷のスナックで開催。中原会長の音頭で乾杯、皆が一年ぶりのときよし鮮魚店直送のふぐ刺しを黙々と食べる。ふぐ鍋に入り一息つくとかラオケタイム。中原会長が室積出身のあさみちゆきさんの「青春のたまり場」を熱唱し、盛り上がった。

参加の皆さん(卒年順)は

西崎 好一 (S26卒)
石川 幸恵 (S29卒)
中原 靖生 (S34卒)
平原 久嗣 (S36卒)
久保 和克 (S36卒)
古地 昭彦 (S40卒)
福岡 直樹 (S40卒)
藤井 政道 (S47卒)
高山 信夫 (S55卒)

光潮同窓会関東支部特別顧問

西崎好一さん記



関東支部機関紙

「うしお」35・36号より抜粋

光市の復興と共に育った私

石川 幸恵さん (29年卒)

「私は12人きょうだいの末子で、父は昭和16年に亡くなりましたから、当時、家に居たのは母と2歳上の兄と9歳だった私だけでした。家は光海軍工廠の正門そば（現在の中央2丁目）にありました。空襲の日（昭和20年8月14日）。午前中に空襲警報がなり、皆で紺屋浴（こんやえき）現在の光高の南側あたり）の防空壕に避難しました。12時少し前に警報が解除されて帰宅し、さあ昼食というときにすごい爆音が聞こえて来たので外を見たら、はじめて目に

支店を出した。
「このとき製鐵所の庶務課長だったのが福田勝洋さん（ペンネーム室積光、49卒）のお父さん。とてもよくしてくださって家にもよくおじゃまし、お昼ご飯をよばれたり赤ん坊だった勝洋さんのおむつを替えてあげたり」

空襲後は食べるものがない。光井小まで裸足で通い、おむすび1個と沢庵一切れの配給をもらう列に並んだ。しばらくして歯科医だった2番目の姉の家に引き取られて中2までは福川（現在の周南市）に、その後、海軍工廠で生き残った長兄に引き取られて光に戻り、光井中、光高と進む。

幸恵さんが店頭に立った製鐵所の売店では、ズボンや背広がばんばん売れた。
「カンロを創業した宮本政一さんにもとてもかわいがっていただいたし、苦労もしたけど、光にはいい思い出がいっぱい。東京に来てからの方が長くなりましたが、やはり私には光がいちばん大切な場所です」

この長兄が、洋品店「双葉（ふたば）」を創設した。
「私も250ccのバイクを乗り回して配達などを手伝いました」

（談）
——こんな遅しくて明るい成功譚が、東北の被災地にも星の数ほど生まれますように。

双葉の向い側では太陽館という映画館をスタートし、そこでも幸恵さんはチケットを売ったりして手伝った。普賢祭では光で初のソフトクリームを売って大当たりしたり、金魚すくいをしたり。

（※）終戦前、米軍機が降伏等をよびかける目的で撒いていた銀色のビラのこと。拾うことは厳禁されていた。

昭和28年には八幡製鐵が光海軍工廠跡に進出を決定する。その光製鐵所の売店（現在の島田2丁目）にも

（まとめ 47卒 来戸）
（※）終戦前、米軍機が降伏等をよびかける目的で撒いていた銀色のビラのこと。拾うことは厳禁されていた。

* 関東支部事務局ご案内 *

〒164-0012

東京都中野区本町6丁目35番14号
アダチビル6階 アポロ環境衛生(株)内

事務局長 藤井政道 (S 47年卒)

TEL 03 (5340) 3055
FAX 03 (5340) 3088
Eメール info-b@apollokankyoku.co.jp

平成23年度

関東支部の日程

○9月3日(土) 12時～

学年幹事総会

「主婦会館プラザエフ」

○10月22日(土) 13時～

関東支部総会

「主婦会館プラザエフ」

○11月 18時30分～

第2回常任幹事会

「主婦会館プラザエフ」

関東支部 総会報告

平成 22 年 10 月 23 日、関東在住の光潮同窓会同窓生約 100 人が出席して、関東支部（中原靖生会長）総会が、東京四谷の主婦会館プラザエフで開催されました。

光市からは、守田義昭光潮同窓会新会長をはじめ、市川熙市長や倉田伸治光高校長が来賓として出席しました。

総会では、関東支部の活動報告や会計報告に続き、守田光潮同窓会長が関東支部の活発な活動に対してお礼を述べた後「歴史と伝統ある光潮同窓会の会長として、その任務に精励したい。とりわけ、今後の光潮同窓会の活性化と母校の発展のために、ベストを尽くす」と力強い決意の挨拶をしました。

また、倉田光高校長からは、光高卒業生の進路状況や運動部の活動状況が報告されるとともに、市川市長からは、ふるさと納税への協力をお願い等について挨拶がありました。



総会終了後は、フリーアナウンサーの徳山ひかりさんの司会で懇親会が開かれ、光高放送部が作成した光高紹介のビデオが放映されたほか、恒例のお楽しみ抽選会などもあり、同窓生が歓談する中、和気あいあいと進行。最後は、全員で校歌を合唱し光潮同窓会と光高の発展を期して終了となりました。

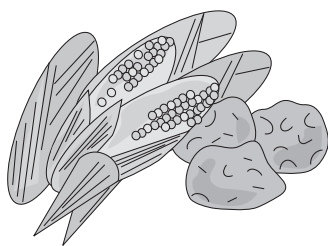


編集後記「帰去来兮。田園将蕪」

その 2 (35 号)

春に渾身の再開墾の末、植えたジャガイモに胡瓜、トウモロコシ。少しは収穫できるかと思ったのが素人の浅はかさだった。やっと 7 月末に帰省すると、3 カ月で畑はまた草ぼうぼう。草を刈り取りながら、植えた種芋の 8 割弱のジャガイモを収穫し、痩せたトウモロコシを 2 本採り、もう黄色くなっていた胡瓜も塩もみして食べた。

晩秋。またしてもぼうぼうに伸びた草を、光在住の同級生の K くんにお払機で一掃してもらい、後日、焼いた。次の帰省は来春だ。また草刈りで 1 年が終るのだろうか。畑は手強い。(S47 来戸)



平成 23 年度

【関東支部役員名簿】

◎特別顧問

宗内 徳行
松岡満寿男
西崎 好一 (S26)

◎顧問

重岡 健司 (S27)
松岡 純雅 (S27)
近藤 克彦 (S32)

◎会長

中原 靖生 (S34)

◎副会長

山本 義博 (S37)
古地 昭彦 (S40)
松尾 清 (S46)

◎監査

高山 信夫 (S55)

◎常任幹事

石川 幸恵 (S29)
吉規 忠雄 (S32)
古閑 宣仁 (S42)
森光 克己 (S43)
大国 邦子 (S44)
大串 正春 (S45)
来戸由起子 (S47)
藤井 政道 (S47)
筒井 俊弘 (S53)
中村 文彦 (S55)
吉村 忠 (S60)

【事務局次長】

【事務局次長】



支部だより

関西支部から

関西支部長 鎌田 誠 (昭和30年卒)

関西光潮会は昨秋11月に総会を開いた。通常、隔年ごとに(二年に一回)総会を行っているが、本年は、初めて連続開催をすることになった。

関東光潮会は毎年会合を開いており、100人を超える盛会ぶりである。

会員の母集団の大きさの違いもあり、関東並、は望むべくもないが、毎年開催となれば、それだけ同窓会 mind の高揚につながるのではないかと、と支部役員会は結論した次第である。

本年は、11月12日(土)於ホテルコムズ大阪にて挙行の予定である。この拙文をご覧いただいた向きは、関西在住の同窓友人に、積極ご参加をご鳳声を賜りたく、伏してお願ひする次第である。(案内状は後刻発送)

昭和30年組は東西を不問、出席者が多く、今は昔、机を並べた仲間の元気な姿に接して、光高の思い出百

倍となるのである。

同窓生といえば中村安平さんという先輩がおられる。昭和28年卒、東京は町田市ご在住で、読売新聞の俳壇、歌壇のご常連であられる。たとえば、〃死の用意できてますかと僧が問う さらさらに無し鰻食る〃の如し。在学時に知己を賜って以来、お会いしていないが、我が先達にかかる健康で爽やかなる文化人の存在をご紹介します。

それから、光潮会の守田会長。貴方からいただいた、本年度山口国体のヨットのバツヂ胸につけていますよ。会社時代のOBに見せびらかせていますよ。特にヨットは光高現役諸君の健闘を祈るや切。

最後に光高現役諸君。東日本大震災後、〃頑張ろう日本!〃が合言葉です。巨人のラミレス選手はホームランを打った際に〃We are one!〃と叫びますが、あなたならこれをどう英訳しますか?

* 関西支部事務局ご案内 *

〒 530 - 0041

大阪市北区天神橋 3 丁目 2 番 13 号

大阪謄写館ビル 704 有限会社タムラ不動産鑑定内

T E L 0 6 (6 8 8 1) 0 9 0 0

アドレス <http://koutyoukansai.hp.infoseek.co.jp/>

Eメール tamura@heart.email.ne.jp



思い出の母校（五十五前の頃）

関東支部常任理事 吉 規

忠 雄（昭和32年卒）



この度の東日本大震災で被災されました、多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。尚当地でも今だに余震が続き不安な日々です。

当時の母校は武田薬品工場の一角に、東西校舎が統合されて、広大な敷地内に建設されたものです。つばめマークの国鉄バスにて郵便局前で下車し、徒歩五分くらいの所でした。敷地境界線に用水路があり、橋が掛かり通用門には警備員の詰所があつて、朝夕挨拶を交わしていた時代でした。

校舎は平屋三棟が二列に並び、六

棟全部が廊下で繋がっていて、ここからも日が入り明るい校舎でした。施設関係では国公認の四百メートル陸上競技場があり、西側にはバレーボールのコート、テニス、バスケットのコートがあり特に宗内先生の指導の元、女子バレー部は県内最強でした。三十年頃か体育館も完成し、中国五県高校総体の会場にもなったと思います。又三十一年には待望の野球場が完成し、その勢いもあつて夏の甲子園を目指して、県周防地区予選の柿落としに当球場が使用されました。選手はじめ全校盛り上がるの内に地区予選を勝ち抜き、周防地区代表となりました。そして山口県決勝戦でも豊浦高に三対二で勝ち西中国大会に進出する事ができましたが、広島県での進進商高戦では四対〇で敗退し、甲子園のゆめは敗れました。（当時は山口県と広島県から一校のみの出場規定でした）

高村投手、前田主将（同級生）はじめ選手一同よく頑張りました。小生も応援団員の一人として随行し称えたものでした。校歌と合わせ野球部の応援歌も思いだします。「天地の生気光陵に、籠りてここに幾清爽、この春秋に磨きたる、光龍健児八百の、中より出でし野球部の、誉は世々に盡きざらむ」と声高らかに歌ったものでした。今でも歌っていますか？

又広大な敷地に雑草の手入れとして羊を飼い、草も食べさせ、羊毛も収穫されて一石二鳥との考えで、のんびりとしたユニークな発想の時代でもありました。その後羊さんはどうされました事やら？当時の国語の青木先生が発行されていた「第八号光芸」の表紙と、挿絵を美術部員だった関係で依頼され、羊の親子を描いて投稿したところ大変好評でした。

今でもこの本は小生の宝物です。余談ですが一年生の時、山口県高等学校美術展にて特選の賞を頂き表彰されました。昨年の六十五回ゆめ半島千葉国体では、デモンストレーション競技のターゲットボードゴルフ流山市協会会長兼、千葉県理事として本

部役員で参加しました。猛暑の中の大会でしたが盛会の内に終了する事が出来ました。今年六十六回山口国体では光市もセーリングや、バドミントンの会場となり、又光校から多数の種目に選手が出場されるようですが、全力を尽くして頑張ってください。定年後の小生は世の為人の為に一日一善を心掛けて歩んでおります。在校生、同窓生の皆さん、勉強や事後と人生に悩んだ時は、大きな声で校歌を歌ってください、涙も流して下さい、その後は必ずや希望の光が見えて来ます。

最後になりましたが母校及び光潮同窓会の、益々のご発展を祈念申し上げます。



自作の絵 春の運河 流山市展入選

徒然なるままに、5 年日記

馬庭 佳子 (昭和 43 年卒)



友達が 10 年日記をつけているのに触発され、自分も還暦を境に挑戦してみたいと思った。

いきなり 10 年というのもあきつばい私には無理だと思い、まずは 5 年日記から挑戦してみる。人生の美味しい部分をあらかじめ無事にすこし、これからの一日一日は今までの生き方の総仕上げ、徒や疎かにはできない。自分の記録の歴史を綴るつもりで昨年の 4 月から書き始めた日記も瞬く間に 1 年が過ぎ、もうすぐ又 1 年の折り返しの月が来ようとしている。1 ページが 2 日分、縦が 5 段で 5 年分になっている。一日わずか

5 行だが、その中には 2 ～ 3 行で終

わる日もあれば書ききれない日もある。何も書く事がない時は、その日の天候と夕食の献立を、翌日もなければ世の中の出来事や読んだ本のタイトル、たまには仕事のことや、趣味でやっているイタリア語について書いてみる。これとて脳の老化とのせめぎ合い、授業に行っても会話をするとというより、「アー」とか「ウー」とか「エー♪」とか発声練習まがいの有様だ。こんな落ちこぼれながらも続けているのは、素敵な仲間がいるからだと思う。自分一人ではとても経験できない事が、个性的なおじさま二人を含めて 5 人集まれば 5 通りの人生を見聞きできる。単調な生活には限りなく刺激的なひとときだ。興味があれば思い切つて扉を開いてみるといい。その先には思いがけない出会いもあるものだ。

目を少しだけずらせば、たちまち

一年前の同じ日にタイムスリップできるが、比較できなくて残念なのは昨年の 3 月 11 日の日記が無い事。あの日は何をしていたのだろうか？まさか 1 年後の同じ日に大震災が来るなんて誰が想像しただろう。

1000 年に 1 度という未曾有の天災を経験した私達に、世界の人々は温かい支援と、東北の方々の落ち着いた行動に、驚きと賞賛を与えて頂いた。同じ日本人として誇らしく、名誉なことだと思う、が再生の道のりはまだ始まったばかりで先が見えないところだ。

フクシマが福島に戻るのはいつの日の事だろう。願わくばそう遠くない未来であつて欲しい。これから日本を背負っていく若い人にはできるだけ負けの遺産を残してはいけなし、このような経験はして欲しいなと切に思う。

私達は半世紀以上、十分な人生を生きてきた、これからは自身で好きなように時間を埋めていく事が出来る。友達の中には、個人で被災地にニーズにあつた援助物資を送っている人がいるが、先日感激された高齢の方から直接お礼の電話があり、感

謝の言葉とともに

「あなたから頂いた親切は、子や孫にも大きくなつても忘れないように、しっかりと伝えていきます」と言われたそうだ。

予期しなかったことに驚くとともに、ぬくもりのある方言の余韻と、助けてあげることが出来たという嬉しさで、こちらの方が胸がいっぱいになったと言っていた。

自分が誰かのためになっている、必要とされていると言う感動は無償の愛以外では、味わえないものだろう。

そう言えば今朝の天声人語にも「人を助けて変わる人生もある」と書いてあった。自然と湧き出る感情だけに、相手にも響くものがあるのだらうと思う。私自身の有り余る時間このような感動で埋めてみたい。

さて、今日の終わりの日記にはこう書く。

今夜から難解な原稿書きの宿題から開放されて、漸くぐっすり眠ることが出来る。

結果はともかく、めでたし、めでたし！

「走る」こと 光高校陸上競技部

国 近 友 昭 (平成 4 年卒)



は何であろうかと自分なりに考えてみた。いくつかの理由が考えられるが、その 1 つが、光高校での陸上競技生活であったと思う。

私は浅江中学 1 年生のときに陸上競技を始めた。それまで野球少年だった私は、野球選手を目指していた。しかし、子どもながらに自分の野球での限界を悟り、自分が得意である「走る」ことで目立てると思い、陸上競技部に入部した。特に「走る」ことが好きだったわけではなく、目立ちたい、ただそれだけの動機であった。きっかけはそんな単純なことであったが、中学 3 年間、高校 3 年間、そして実業団 19 年間と長きにわたり走り続けて来た。ここまですで長く走り続けることができた理由

私は中学時代から県内ではトップレベルにあった。全国大会やジュニアオリンピックにも出場した。それほどの選手であったから、当然、中学を卒業するにあたり県内の陸上競技の強豪校から誘いがあった。しかし、中学校の陸上競技部はとても厳しく、もともと「走る」ことが好きではなかった私には「走る」ことが辛く感じられた。だから、光市を離れ、寮に入り、陸上競技を続けるという考えには到底ならなかった。正直、高校に入ったら陸上競技部には絶対入らないと思っていたくらいだ。とはいえ、高校に入学すると、中学時代に頑張ってきた「走る」こ

とを、捨てる潔さもなく、結局、陸上競技部に入部した。

光高校陸上競技部は、高校が進学校ということもあり、練習よりも学業優先といった感じであったし、顧問の先生も練習に対してそこまで厳しいことは言われなかったと思う。また、先輩後輩の上下関係もほとんどなかったため、「走る」ことは好きではなかったが、部活に行ってみると話したりするのがとても楽しかった。そんな、およそ強豪校とはかけ離れた雰囲気ではあったが、競技力は高かった。私が 1 年生のときには 2 つ上の兄とハンマー投げの先輩がインターハイに出場し、私が国体に出場、2 年生のときには私と短距離の 1600m リレーがインターハイに出場した。3 年生のときは私がインターハイと国体に出場した。高校卒業後は広島にある実業団チームで「走る」ことを続け、現在は、東京にある実業団チームに所属している。長く「走る」ことを続けてきたが、昨年 12 月のマラソンを一区切りとし引退を決意した。

引退し、自分の競技生活を振り返ったときに、もし高校が光高校ではなく、陸上競技の強豪校に行っていたら引退するのがもっと早くなっていたと思う。しかし、光高校陸上競技部で 3 年間過ごしたことによって、中学のときに「走る」ことが辛く感じられていた心がリフレッシュされ、高校卒業後も「走る」ことを続ける道を選んだ。

「走る」ことを引退した私は、これから「走る」指導者になりたいと今勉強中である。現役中は「走る」ことが好きではないと思っていたが、引退した今思うことは、つまるところ、私は「走る」ことが好きなのだということである。



在校生の皆様へ

岡村 直 (平成6年卒)



私、岡村 直は現在、福岡県にあります株式会社サニクリン九州という会社で営業と弊社軟式野球部の監督として日々生活しております。昨年は千葉県での国民体育大会にも福岡県の代表として参加いたしました。あいかかわらず野球に携わる楽しい人生で毎日が大変充実しています。

話はかわりますが、私が、光市をはなれて18年になります。この学び舎で学んだ様々なことが今の自分のベースの部分になっているとおもいます。それでは、私から在校生に

おくる言葉を私なりに述べたいとおもいます。

早速ですが私の座右の銘は「実るほど頭をたれる稲穂かな」です。字のとおり素晴らしい言葉です。社会にでてこの言葉に毎日痛感させられています。なぜこの言葉かと申しますと私の高校時代の恩師、野球部監督の坂本昌穂氏から教えていただいたからです。在学中はほとんど意味がわかりませんでした。今では最高の言葉を頂いたとおもっております。私は野球を通して、成長できたと自負した人間です。ここからは在学中の野球から学んだことをお話ししたいとおもいます。

毎日、朝から朝練、夕方から練習と野球一色の生活でした。その中で何を学び得たかという、「一生懸命しない何と何も生まれない」という

ことです。

ただ、それだけです。ただ、それが一番難しいと気づきました。社会にでると、できない理由をいつたり、様々な誘惑に負けてできない人、また最初からあきらめてしまう人など一生懸命何事もできない人がたくさんいます。「一生懸命できるもの」をさがして私はこのような人間にはなつて欲しくないと心からおもっております。学生中は、勉強でも趣味でも何でもいいのでそれを一生懸命してみてください。そしたら必ず自分自身にしかわからない、何かが得られるとおもいます。それが、今後の人生において必ず生きてくると私は考えております。何かとは「喜び、達成感、挫折、限界」これらを体感することが最も大切なことだとおもいます。

今も企業チーム(株サニクリン九州)の野球部で監督として活動していますが、「何か」を毎日感じて感動できることが、最高の幸せとおもっております。

また、座右の銘にもあるように、

日々「感謝」の気持ちをもって生活することが大切です。両親、兄弟、仲間、同僚など人間はいろいろな支えがあつて存在し、生活できているとおもいます。何事にも感謝の気持ちを持ち、接していけば必ず自分を大切にしてもらえ、仲間ができるとおもいます。たくさん仲間をつくってください。必ずや楽しい人生になるとおもいます。

未来は自分で創造しつくっていくものです。明るい希望をもって夢にむかつて突き進んでください。

最後に私のような人間がこのような歴史ある「光潮会報」の文面に掲載される立場ではないのですが在校生の皆様のご活躍にいかしていただければ、幸いです。また、近年は母校にも全く顔をだしていないので、近い将来、我が学び舎に足を運び在学中のことを思い出し、エネルギーをもらいに帰省したいと考えております。たくさんの方に感謝の気持ち忘れず、今後も私なりに活躍していきたいと思えます。

オペラ歌手として

岡坂 弘毅 (平成 8 年卒)



私は浅江中学校出身で、光高校に進みました。今は藤原歌劇団に所属しオペラ歌手として活動しています。昨年の冬には光市民ホールで初のリサイタルを開催することができました。

高校に進学して中学の頃から続いていた吹奏楽部に所属しトロンボーンを演奏していました。一、二年生の時に甲子園に吹奏楽で応援に行けたことは貴重な体験でした。掛け持ちでサッカー愛好会に入り、充実した高校生活を過ごしました。

大学はトロンボーン専攻で音楽科に進学しました。大学では、より専

門的な授業があり、ピアノ、声楽、和声学、音楽史など今までは独学でやっていたことを、たくさん学ぶ事が出来ました。その中で興味が一番持てたのが声楽でした。

楽器をやっていたから肺活量があり、サッカーをやっていたから体力があったので、初めて歌うにしては声が良く出る方でした。良い先生にもめぐり会いどんどん声楽というもののにのめり込んでいきました。三年生の時に声楽専攻に転科し、古典イタリア歌曲、ドイツリート、オペラ、宗教曲、日本歌曲など色々なジャンルの曲について学ぶようになりました。

中でも一番興味を持ったのがオペラでした。授業の中で様々なオペラの一場面を実際に演奏できるオペラ研究があり、ますますオペラの魅力に取りつかれました。たくさん登

場人物の心境を学び演じる事は本当に楽しいものでした。それからは授業の合間に図書館に入り浸り、ずっとオペラの映像や、音源を聞き、気に入った物を探しては楽譜を入手し、手当たり次第歌ってみました。歌いされるかどうかは別にして、興味の湧いたものに片っぱしから手を出し、何でもやってみました。

大学を出てすぐにイタリアに留学をし、声楽の基礎、語学や発音、自分のレパートリーになる曲などを現地の先生に学び、風景や、歴史ある建物、気候を体験しました。さらに教会のミサ、カーニバル、など現地でしか体験できないイベントも積極的に参加しました。

帰国後、上京し本格的に藤原歌劇団の育成所でオペラの勉強を始めました。そこでは本番を向かえるまでに、どんな勉強をし、稽古を重ね、舞台が出来上がっていくかを学びました。育成所を修了して、合唱団として一流の舞台に立てるようになり、日本を代表する歌手を間近で観て、感じられる事に感激しました。何度か合唱団として舞台上立つうちに、自分もソリストとしてオペラ

を演奏したいと思うようになりました。

しかし、プロのオペラ歌手として舞台上立つことはまた別物でした。商品としてお客様に見せるためには、声楽的緻密さや表現の幅広さなどが無限に求められ、自分がどこまでそれに対応できるのか不安でした。

ソリストとしての経験を重ねるうちに、今までに体験してきた、大学で訳もわからず歌っていたこと、イタリアで体験した文化や、言葉などがすべて結びつき自分が成長している事に気が付きました。

今になって感じる事は、経験に勝るものは無いということです。一人でいくら勉強しても、本場の文化や空気感を体験しても、最終的に自分が少しずつでも、どんなに小さくても、現場で経験できることをしないと本物には近づけないということだと思います。逆にたくさん、何でもやっていたのが後からついてくるということもあります。なんでもいい、好きな事もそうでない事も、何でも経験してください。どこかで何か役に立つと思います。

光潮同窓会の開催にあたって

平成23年度光潮同窓会総会懇親会実行委員会 河野修二（昭和61年卒）



光高校卒業生の皆さん、今年も光潮同窓会のご案内をする時期になりました。

今年の光潮同窓会を開催するにあたって、幹事年の昭和61年卒業生有志で準備を進めております。その中で集まった有志と、準備の傍ら、今年のテーマについても話をし、今年は、『絆』というテーマで皆さんをお迎えしたいと思います。

今年は3月に発生いたしました、東日本大震災もあり、多くの方が被災され、未だに不明の方や不便な生活を強いられている方も多数おられます。

また多くの方の力も合わさり少し

ずつ、復旧・復興へと進んでいます。被災地から遠く離れたこの地で何ができるのか？など自問自答の方も多いと思います。私は、今、この時だからこそ、『絆』というテーマで皆さんに集っていただきたいと思っています。

最初は身近なところからではありませんが、光高校同窓生としての旧知の絆をより深め、さらに世代間を超えた新たな絆を築き、最初は小さなこの絆の輪が大きくなっていくことを願って準備を進めてまいります。

今年の光潮同窓会総会及び懇親会は8月13日（土）。午前11時から、『松原屋』さんでの開催となっております。

幹事年有志一同、精一杯の準備で皆さんのお越しをお待ちしております。



昨年の同窓会総会の様子

平成 22・23 年度光潮同窓会役員

職務	氏 名	卒	担 当
顧問	倉 田 伸 治		光高校校長
顧問	藤 本 勝 人		光高校事務長
顧問	秋 本 龍 二		光高校教頭
顧問	友 澤 邦 昭		光高校教頭
会 長	守 田 義 昭	42	
副会長	室 本 好 重	54	広報
副会長	田 中 謙 史	61	企画・運営
幹 事	守 田 信 枝	32	広報
幹 事	市 来 健 之 助	32	◎企画・運営
幹 事	酒 井 隆 行	35	◎組織・会則
幹 事	木 村 幸 子	37	企画・運営
幹 事	松 尾 尚 慈	39	企画・運営
幹 事	小 林 一 登	43	◎広報
幹 事	大 川 博 幸	43	○広報
幹 事	兼 清 照 久	45	組織・会則
幹 事	河 村 幸 昌	47	組織・会則 野球後援会会長
幹 事	木 村 則 夫	49	企画・運営
幹 事	高 瀬 信 昌	56	組織・会則 全日制 PTA 会長
幹 事	芳 岡 統	62	企画・運営
幹 事	浜 岡 正 美	63	広報
幹 事	小 野 美 智 恵	63	広報
幹 事	松 並 宏 昌	H2	広報
幹 事	佐々木 孝 高	H3	広報
幹 事	北 川 宣 孝	H8	広報
監 査	泉 屋 孝	35	
監 査	小 林 敬 典	45	
事務局	小 玉 昭 文	57	
事務局	宮 秋 孝 史	57	
事務局	岡 部 彰 彦	60	
事務局	橋 本 健 太 郎	H4	
事務局	佐々木 啓 介	H13	



編集後記

本号は東北大震災について少し触れる必要があるだろう。「想定外」という言葉が飛び交ったが、ある地域では過去の地震で津波を経験し家屋はこの碑から上に造るべしとの伝えが残っていて、実際にそこに住んでいた人は津波災害からは逃れられたと聞いている。たしかに数百年に一度は「想定外」と言えるかもしれないが実際に過去の教訓を生かしている人達もいる。私は歴史から学ぶことも大事だと考えていて先人達が経験から打ち出した答えに大きな間違いはないのではと考えている。

本年度から広報担当は新メンバーとなった。何から始めたらいいのか分からず手さぐり状態で発行に漕ぎ着けた。当然、広報担当メンバーに助けられてのことだが。

私は何をするにしても楽しくなければ仕事が進まないと考えていて仲間づくりから入るタイプ。光潮会も先輩が大事に育てたからこそ今日があると思っている。

広報作りも先達の教えを踏まえ、光高等学校の校風向上に役立ちたいと考えている。

(同窓会広報部長 昭和43年卒、小林一登)



発行 山口県立光高等学校光潮同窓会
山口県光市光井6-10-1
TEL 0833-72-0340 (光高等学校)

印刷 中村印刷株式会社